

[サブサハラ・アフリカ諸国で活躍する日本人医師・研究者の連絡会議：  
第1回東京会議]  
報告書  
(平成29年2月作成)

【会 期】平成29年(2017)1月10日(火)

【時間帯】PM 3:00 ~ PM 8:00

【会 場】憲政記念館第一会議室

【言語等】日本語(英語通訳なし)、邦人以外の参加も許容(open meeting)

【参加費】Admission Fee Free (懇親会のみ参加費)

【主 催】(社)アフリカ開発協会(AFRECO)、千代田区紀尾井町、東京

Voice 03-3511-8911, URL <http://www.afreco.jp/>

【報告書】サブサハラ・アフリカ諸国で活躍する日本人医師・研究者の連絡網を立ち上げようという企図の会議が平成28年8月25日、ケニア共和国ナイロビ市のFortis Suites (Ground Floor) で開催された。この企画をより深化・具体化するため2017年1月10日(火)憲政記念館にて再度サブサハラ・アフリカ諸国で活躍する日本人医師・研究者の会議を設けた。本邦での開催が初めてとなるこの会議は、矢野哲朗(アフリカ開発協会会長)より開会の辞より始まり、3名の日本人医師(武居光雄医師、川原尚行医師、一瀬休生医師)から現地の活動についての報告と情報の共有、設立発起人である馬場久敏医師から本会の再定義、内閣官房から藤本康二氏(内閣官房内閣審議官健康・医療戦略室次長)をお招きしての講演、そして自由討議と3部構成で行われた。

まず、第1部では武居光雄医師(大分・諏訪の杜病院院長)から「ナイロビでの診療所の運営、巡回診療と地域保健の展望(国策との関連について)」についてプレゼンテーションいただき、次いで川原尚行医師(NPO法人ロシナンテス)によるスーダンにおける巡回診療の現状並びに課題を講演いただいた。研究の側面からは一瀬休生医師(長崎大学熱帯医学研究所教授、熱帯医学研究所ケニアプロジェクト拠点長)がKenya Medical Research Institute (KEMRI)との研究体制、SATREPSなどにおける研究を報告した。

武居医師のケニアにおける巡回診療活動は2013年5月から開始され、延べ3万人という十分な実績を有しており、日本人医師・医療従事者だけではなく、日系薬剤メーカー、医療機器メーカーも共にアフリカへ進出して欲しいという要望が述べられた。また、川原医師のプレゼンテーションでは医療にとどまらず、コミ

ユニティの形成までも手がける幅広い活動について刺激的な情報を共有いただいた。一瀬医師からは、ケニアと長崎大学の研究は半世紀に上る歴史を有し、具体的に SATREPS などの研究においても共同でプロジェクトを展開し一定の成果を上げていることなどが言及され、日本とアフリカによる共同の医療研究が今後発展していく可能性が示された。加えて設立発起人である馬場久敏医師から、本会議の設立の目的を改めて再定義いただくと共に、今後の予算措置や展開についての提言が行われた。

第2部では藤本康二氏（内閣官房内閣審議官健康・医療戦略室次長）より現在、内閣府がアジアで展開する予定であるアジア健康構想の概要をご説明いただき、今後はこの会議を中核としてアフリカへの日本医療の進出構想につなげていきたいとの発言をいただいた。



図. 積極的な討議を行う参加者 (憲政記念館にて)

第3部の自由討議では、医療活動を継続するための経費の獲得・その具体的グローバル医学教育の将来展望、医療インフラの整備の問題、日本等での広報活動、について活発な討議が行われた。討議後、佐藤啓太郎（アフリカ開発協会副会長、元駐タンザニア大使）が閉会の辞を述べた。その後、懇親会に移って閉会となった。

（文責：一般社団法人アフリカ開発協会事務局）